

5月下旬田植「コシヒカリ」栽培ごよみ

ねらい
無効分げつの少ない、すつきりしたイネづくりで、乳白粒の発生を抑え、良質・良食味米をつくる

栽植株数	18.5株/m ²	最高茎数	420本/m ²	穂数	350本/m ²	1穂粒数	80粒	収量	28,000粒/m ²	容熟歩合	83%	玄米千粒重	22.0g	10a収量	510kg
------	----------------------	------	---------------------	----	---------------------	------	-----	----	------------------------	------	-----	-------	-------	-------	-------

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ	<p>出芽期 出緑化期 硬化期 田植期 活着期 分けつ期 最高分けつ期 幼穂形成期 減数分裂期 穂ばらみ期 出穂期 登熟期 出穂ぞろい期 成熟期</p>																				
水管理	<p>深水 浅水 浅水 浅水 間所灌水 中干し 間所灌水 間所灌水 浅水 間所灌水 落水 落水</p>																				
主な作業	<p>土づくり 基肥 育苗 播種 除草剤処理 田植 育苗箱施薬 病害虫防除 第一回穂肥 第二回穂肥 病害虫防除 病害虫防除 刈取、脱穀 乾燥調整</p>																				
技術内容 (資材は10a当たり)	<p>深耕(30cm深く起す) 土づくり肥料施用 たい肥施用 薄播き(乾粒100〜120g/箱) 窒素1.5〜2kg →量は土壌類型と肥沃度により調整 雑草の発生状況を見て、遅れないように 条間30、株間18cm、1株3〜4本 雌雄数18〜19本の頃 出穂前20〜18日、窒素1.5〜2kg →時期と量はイネの生育により調整 出穂前15〜10日、窒素1kg →時期と量はイネの生育により調整 出穂期後30日 仕上がり水分15% 適期刈り取り(青味率10〜15%) 排水良好田では秋起し 稲わら腐熟促進対策</p>																				
主な対象病害虫	<p>苗木枯病 イネトロオウムシ イネミスノウムシ いもち病 紋枯病 穂いもち 紋枯病 穂いもち ウシカ カメムシ カメムシ</p>																				

「つや姫」栽培ごよみ (特別栽培基準)

主な品種特性

- ◎高寒性品種に慣れ、高品質である
- ◎美味(がみ)
- ◎食味(がみ)に強い
- ◎葉の直立し、刈り取りが早い

特別栽培基準

- ☑化学肥料(窒素の目安 5.0kg/10a)のうち、化学肥料由来の窒素成分量の合計 4kg/10a以下
- ☑化学合成農薬
- ☑化学合成殺虫剤の使用回数(検分) 10回以下

生育・収量目標と収量構成要素

㎡当りの種付株数	1株種数	㎡当りの穂数	1穂総数	㎡当りの籾数	登熟歩合	玄米千粒重	収量(精玄米)
株/㎡	本株	本/㎡	粒/穂	粒/㎡	%	g	kg/10a
185	189	350	80	28,000	82	230	525

月日	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	
生育ステージ	出芽期	緑化期	硬化期	田植期	活着期	分けつ期	有効分けつ終末期	最高分けつ期	幼穂形成期	出穂期	成熟期										
水管理				灌水管理	間断的な水	作耕	中干し	走水	間断的な水	灌水管理	間断的な水	灌水									

主な作業

土づくり	播種	育苗	基肥	育苗箱施肥	田植	除草剤散布	作溝	中干し	穂肥	仕上げ防除	澆水	収穫	乾燥調整
------	----	----	----	-------	----	-------	----	-----	----	-------	----	----	------

主な管理作業の内容

- **土づくり**
 - ・ 堆肥等の有機物用として土づくりを促進する
- **播種**
 - ・ 埋子深が浅すぎた場合は追播も必要
 - ・ 受播期前後は播種量100%を目安とする
 - ・ 播種110%前後の播種量を目安とする
 - ・ 育苗期間の温度管理、かん水は必要
- **基肥**
 - ☞ 基肥の使用
 - ☞ 地方の状況によって播種量100%を目安とする
 - ☞ 地方の状況によって播種量100%を目安とする
- **田植**
 - ・ 播種後1週間程度は追水を行う
 - ・ 播種後1週間程度は追水を行う
 - ・ 播種後1週間程度は追水を行う
- **除草剤散布**
 - ・ 雑草の発生状況等をみて、適時に除草剤を散布
 - ・ 雑草の発生状況等をみて、適時に除草剤を散布
 - ・ 雑草の発生状況等をみて、適時に除草剤を散布
- **作溝**
 - ・ 水管理を効率化し、効果的にする
- **中干し**
 - ・ 根の健全化、無効分りの発生防止
 - ・ 葉数の減少による、本葉数に近づける
- **穂肥**
 - ・ 葉数の減少による、本葉数に近づける
 - ・ 葉数の減少による、本葉数に近づける
 - ・ 葉数の減少による、本葉数に近づける
- **仕上げ防除**
 - ・ 雑草の発生状況等をみて、適時に除草剤を散布
- **澆水**
 - ・ 出穂後2週間程度は、田間かん水を続ける
 - ・ 出穂後2週間程度は、田間かん水を続ける
 - ・ 出穂後2週間程度は、田間かん水を続ける
- **収穫**
 - ・ 青熟段階10%前後
 - ・ 青熟段階10%前後
 - ・ 青熟段階10%前後
- **乾燥調整**
 - ・ 乾燥調整
 - ・ 乾燥調整
 - ・ 乾燥調整

主な留意点・雑草防除

- **雑草防除**
 - ・ 雑草防除
 - ・ 雑草防除
 - ・ 雑草防除
- **水管理**
 - ・ 水管理
 - ・ 水管理
 - ・ 水管理
- **施肥**
 - ・ 施肥
 - ・ 施肥
 - ・ 施肥
- **田植**
 - ・ 田植
 - ・ 田植
 - ・ 田植
- **除草剤散布**
 - ・ 除草剤散布
 - ・ 除草剤散布
 - ・ 除草剤散布
- **澆水**
 - ・ 澆水
 - ・ 澆水
 - ・ 澆水
- **収穫**
 - ・ 収穫
 - ・ 収穫
 - ・ 収穫
- **乾燥調整**
 - ・ 乾燥調整
 - ・ 乾燥調整
 - ・ 乾燥調整

「ハナエチゼン」栽培ごよみ

栽培適地 地方中圃地からやや肥沃地に適する。

長所 1. 玄米品質が良い。
2. 稈長が短く、倒伏しにくい。
3. 穂発芽しにくい。

注意 1. 育苗期間が比較的低温で経過するため、特に出芽までの温度管理には注意する。
2. 倒伏には強いが極端な多肥栽培は避ける。
3. 出穂が早くカメムシ被害を受けやすいので防除を徹底する。
4. 胴割米の発生を防ぐため刈り遅れないようにする。

収量 kg/10a	570	栽植 密度 株/m ²	18.5	穂数 本/m ²	450	籾数 粒/m ²	30,000	登熟 歩合 %	85	玄米 千粒重 g	22.5
--------------	-----	------------------------------	------	------------------------	-----	------------------------	--------	---------------	----	----------------	------

月	3	4	5	6	7	8	9
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25

生育段階・区分	播種	有終効分げつ期	最高分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ	登熟
草丈	田植	有効分げつ	無効分げつ	幼穂形成	穂ばらみ	登熟
1株茎数	3~4本	24~27本	24~27本	(稈長) 70cm程度	(穂数) 1株当り24~25本	m ² 当り 450本程度
水管理	浸種は10~15℃の水で行う	適切な水管理で生育促進	適切な水管理で生育促進	幼穂形成期の葉色は36~38 (SPAD値) 穂肥は幼穂形成期(出穂25日前)に窒素成分で1.5kg/10a、その10日後に窒素成分で1.5kg/10a施用する	カメムシ防除の徹底	適期刈り取る 適正な乾燥調製

- ◎ **初期生育の促進**
 - ・低温時や強風時は深水
 - ・浅水管理により水温を高く維持
- ◎ **中干しの実施**
 - ・一株二四本以上になったら中干し
 - ・作溝の励行
- ◎ **植え付けは適正に!**
 - ・有機物多投田では減肥
 - ・窒素成分量は三(四)kg/10a程度
- ◎ **基肥は適量を守る**
 - ・外気温にならして健苗育成
 - ・硬化期は温度管理に注意
 - ・薄まきの励行(一(二)kg/箱)
 - ・ハト胸状態となったのを確認して播く
 - ・催芽は温度を守る(三(二)℃)
 - ・浸種は水温を確認する
- ◎ **穂肥の時期は適期に!**
 - ・止葉と幼穂長の確認(一mm)
 - ・穂肥第一回目(出穂前二五日)
 - ・窒素成分量は一(五)kg/10a
 - ・紋枯病防除
 - ・穂肥第二回目(出穂前一五日)
 - ・窒素成分量は一(五)kg/10a
 - ・穂いもち防除(出穂前二(三)日)
- ◎ **仕上げはきちんと!**
 - ・カメムシ防除
 - ・出穂後二五日程度は間断かん水
 - ・カメムシ防除(二回目)
 - ・適期刈り取り(青味粉率一(一)%)
 - ・適正な乾燥(水分一五%)
 - ・調製はライスグレーダ(網目一(八)mm)

「きぬむすめ」栽培ごよみ

収量と収量構成要素の目標値

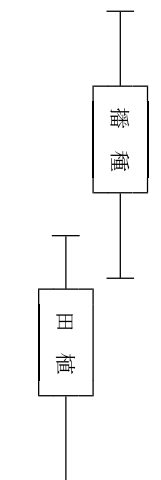
収量	栽培密度	穂数	粒数	登熟歩合	千粒重
kg/10a	株/m ²	本/m ²	粒/m ²	%	g
570	18.5	340	30,000	85	22.5

栽培適地
平田部～中山間部 (標高3000m以下) の早植～普通期栽培(5月上～下旬移植)に適する。

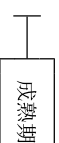
長所
1. 食味が良い。
2. 玄米品質が良い。
3. 多収である。

注意点
1. 倒伏を防ぐために、多肥栽培はしない。
2. いもち病耐病性は強くないので、適切な防除を行う。
3. 白葉枯病耐病性はやや強いので、常発地での栽培は避ける。
4. 穂発芽防止のため適期刈取に努める。

月	4	5	6	7	8	9	10
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15



最終効分止げ時期
最高分げ時期
幼穂形成期



生育段階・区分	育	苗	活	着	無効分げつ	幼穂形成	穂ばらみ	登	熟		
草丈	12cm	3~4本	やや深水	浅水	間断灌水	中干し	走り水	間断灌水	浅水	間断灌水	落水
1株莖数					18~19本						

水管理	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・発芽が比較的早いので、催芽中は芽の状態をよく確認する ・植え付けは株間18cm、条間30cmを基準とする ・適切な水管理で生育促進 ・倒伏防止のため中干しを徹底 ・7月1半月を目安に莖数が少ない、葉色がうすい場合には中間追肥を施用 ・籾数過多を避け整粒歩合の高い米づくり！ ・出穂前20日頃に第1回穂肥、出穂前10日頃に第2回穂肥を施用 ・適正な乾燥・調製で高品質米出荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な苗づくり！ ・健全な乾燥(水分15%)適正な調製 ・適期刈り取り(香味利率10~15%)

技術内容
<p>◎健康な苗づくり！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸種は積算水温で60~80℃ ・催芽は30~33℃ ・ハト胸状態を確認して播く ・薄まきの助行(10~20g/箱) ・硬化期は温度管理に注意 ・外気温にならないで健苗育成 <p>◎差肥の施肥量は適正に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素成分量は3~4kg/a <p>◎植え付けは適正に！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗箱施薬(兼いもち・害虫防除) ・水管理による植え付け防止 ・一株植付け本数 三~四本 <p>◎初期生育の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温時や強風時は深水 ・浅水管理により水温を高く維持 <p>◎中干しの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒムトヒンカ防除 ・作溝の助行 ・一株一八本以上になったら中干し <p>◎中間追肥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七月半月を目安に ・莖数が少ない、葉色がうすい場合には窒素成分量で1kg/a程度を施用 <p>◎穂肥の時期は適期に！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未出葉数(一・五)幼穂長(2mm)確認 ・穂肥第一回目(出穂前20日) ・窒素成分量は1~1.5kg/a ・紋枯病防除 ・穂肥第二回目(出穂前10日) ・窒素成分量は1~1.5kg/a ・いもち防除(出穂前2~3日) <p>◎仕上げはきちんと！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂後3~5日程度は間断かん水 ・いもち、カメムシ防除

「佐香錦」栽培ごよみ

栽培のポイント

1. 移植時期は5月5日～15日とする。
2. 施肥量はコシヒカリ並みとし、多肥は避ける。
3. いもち病の防除を徹底する。

特性

欠点

1. 葉いもちにやや弱い。
2. 稈長が長く、倒伏にやや弱い。
3. 耐冷性はやや弱い。

優点

1. 醸造適性が優れる。
2. 多収である。
3. 千粒重が重い。
4. 品質がよい。

月	4	5	6	7	8	9
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
生育段階・区分	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>有終効分げつ期</p> <p>最高分げつ期</p> <p>種</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>田植</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>有効分げつ期</p> <p>無効分げつ期</p> <p>種</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>減数分裂期</p> <p>出穂期</p> <p>成熟</p> </div> </div>					
育苗	活着	有効分げつ	幼穂形成	穂ばらみ	登	熟
草丈	12～15cm					
葉色	SPAD値37程度(出穂18日前、第2葉)					
1株茎数	3～4本	19本	24本	(穂数) 1株当り19本 m ² 当り350本		
水管理	<p>・ 中間追肥はしない</p> <p>・ 植傷み防止</p> <p>・ いもち予防に箱施葉</p> <p>・ 植付株間は18cm</p> <p>・ 1株植付け本数 三～四本</p> <p>◎ 植え付けは適正に!</p> <p>・ 有機物多投田では減肥</p> <p>・ 側条施肥なら二・四kg/10a以内</p> <p>・ 窒素分量は三kg/10a以内</p> <p>◎ 基肥はひかえめに!</p> <p>・ できるだけ外気温にならして健苗育成</p> <p>・ 硬化期は温度管理に注意しながら</p> <p>・ 薄まきの励行(乾籾120g/箱)</p> <p>◎ 健康な苗づくりを!</p> <p>◎ 水管理の徹底!</p> <p>・ 中干し(一株一九本以上になった時)</p> <p>・ 作溝の実施</p> <p>◎ 葉いもち防除!</p> <p>・ 粒剤を発病の十～七日前</p> <p>◎ 穂肥は適期に!</p> <p>・ 穂肥第一回 窒素分量で一・五kg/10a以内</p> <p>・ 穂肥第二回 窒素分量で一kg/10a以内</p> <p>(出穂前一〇日)</p> <p>・ 穂いもち防除(出穂前二～三日)</p> <p>◎ 仕上げは万全に!</p> <p>・ 穂いもち防除、カメムシ防除一回目</p> <p>・ 出穂後二五日までは間断かん水</p> <p>・ カメムシ防除二回目</p> <p>・ 網目二・〇mm使用</p> <p>・ 調製はライスグレーダ―使用</p> <p>・ 水分一五%</p> <p>・ 適正な乾燥(急激な乾燥は避けゆっくりと)</p> <p>・ 青味籾率一〇～一五%</p> <p>・ 適期刈り取り</p>					
注意事項						

「神の舞」栽培ごよみ

栽培のポイント

1. 移植時期は5月上旬とする。
2. 施肥量はヨシヒカリ並みとし、多肥は避ける。
3. いもち病の防除を徹底する。

特 性

- 優 点
1. 耐冷性が強である。
 2. 多収である。
 3. 千粒重が重い。
 4. 品質がよい。
 5. 醸造適性が優れる。
- 欠 点
1. 得長が長く倒伏にやや弱い。
 2. 白葉枯病に弱い。

月	4	5	6	7	8	9
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25

生育段階・区分	播	田植		出穂期		成熟期	
	種	育	苗	活	着	有	効
生育率	草	丈	12~15cm	16本	24本	SPAD値35~36(出穂18日前、第2葉)	(稈長) 80~85cm
区	葉	色	1株茎数	3~4本	16本	24本	(穂数) 1株当り16本 m ² 当り 300本

生育率	草	丈	12~15cm	16本	24本	SPAD値35~36(出穂18日前、第2葉)	(稈長) 80~85cm
	葉	色	1株茎数	3~4本	16本	24本	(穂数) 1株当り16本 m ² 当り 300本

注 意 事 項	◎健康な苗づくりを！	◎基肥はひかめに！	◎植え付けは適正に！	◎葉色はやや濃い！	◎水管理の徹底！	◎いもち病の防除！	◎穂肥は適期に！	◎仕上げは万全に！
	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ外気温に合わせ、育苗期は温度管理に注意しながら、薄まきの助行（乾籾二〇g／穂） 	<ul style="list-style-type: none"> 有機物多投田では減肥 側条施肥なら二、四kg／一〇a以内 窒素成分量は三kg／一〇a以内 	<ul style="list-style-type: none"> 植付株間は一八cm以内 一株植付け本数 三〜四本 植傷み防止 いもち病予防に節蒴葉 	<ul style="list-style-type: none"> 中間追肥はしない 葉色はやや濃い！ 	<ul style="list-style-type: none"> 作溝の実施 中干し〜一株一六本以上になった時 	<ul style="list-style-type: none"> 粒割を発病の十〜七日前 	<ul style="list-style-type: none"> 穂肥第一回 窒素成分量で一・五kg／一〇a以内 紋枯病防除 出穂前一八日・幼穂長約八mm 穂肥第二回 窒素成分量で一kg／一〇a以内 出穂前一日 いもち病防除 出穂前二〜三日 	<ul style="list-style-type: none"> 出穂後二五日までは間断かん水 カナムシ防除 二回目 適期刈り取り 青味籾率一〇〜一五% 適正な乾燥 急激な乾燥は避けゆくりと 水分一五% 調製はライスグレーター使用 網目二・〇mm使用

「ヒメノモチ」栽培ごよみ

収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	粒数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米 千粒重 g
540	330~ 350	28,000~ 29,000	82	23.0

長所

1. 玄米品質が良い。
2. 収量性が高い。
3. 強稈で倒伏しにくい。
4. いもち病抵抗性がやや強い。
5. 耐冷性がやや強い。

注意点

1. 倒伏には強いが極端な多肥栽培は避ける。
2. 出穂が早くカメムシ被害を受けやすいので防除を徹底する。
3. 穂発芽しやすいので、適期刈取を心がける。
4. 日葉枯病抵抗性が劣るので、常発地での栽培は避ける。
5. うるち品種との識別性に欠けるので混種に注意する。

栽培適地等

- ・県内全域（特に山間から中山間部の地力中庸地に適する。）
- ・早植栽培に適する。

月	3	4	5	6	7	8	9
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15

生育段階・区分	播種	田植	有効分げつ	無効分げつ	幼穂形成	穂ばらみ	登熟
	育苗	活着	有効分げつ	無効分げつ	幼穂形成	穂ばらみ	熟
草丈	12cm						
1株莖数	3~4本						
1株莖数	19本						

水管理ポイント	適切な水管理で生育促進	穂肥は出穂25~20日前に窒素成分で1.5~2kg/10a、その10日後に窒素成分で1.5~2kg/10a施用する	カメムシ防除の徹底	適期に刈り取る	適正な乾燥調整
---------	-------------	---	-----------	---------	---------

◎播種は適量を守る

- ・外気温にならして健苗育成
- ・硬化するまで適量に注意
- ・薄まきの励行（20~25cm）
- ・ハト胸状態となったことを確認して播く
- ・健苗は温度を守る（20~25℃）
- ・浸種は水温を調整する

◎田植は適正に！

- ・一株田付け本数 3~4本

◎初期生育の促進

- ・低温時や強風時は深水
- ・浅水管理により水温を高く維持

◎中干しの実施

- ・一株一丸以上になったら中干し
- ・作溝の励行

◎穂の時期は適期に！

- ・止葉と幼穂長の確認（2~3回）
- ・窒素成分量は1.5~2kg/10a
- ・穂肥第二回目 出穂前5~10日前
- ・紋枯病防除
- ・窒素成分量は1.5~2kg/10a
- ・穂肥第三回目 出穂前25~30日前
- ・穂いもち、カメムシ防除
- ・出穂後五日程度間断かん水

◎仕上げはちゃんと！

- ・穂いもち防除（出穂前2~3日）
- ・窒素成分量は1.5~2kg/10a
- ・穂肥第二回目 出穂前5~10日前
- ・紋枯病防除
- ・窒素成分量は1.5~2kg/10a
- ・穂肥第三回目 出穂前25~30日前
- ・穂いもち、カメムシ防除
- ・出穂後五日程度間断かん水
- ・適期刈り取り（青刈率10~15%）
- ・適正な乾燥（水分25%）
- ・調整はライスグレーダー網目1.8mm

「ココノエモチ」 栽培ごよみ

収量と収量構成要素の目標値

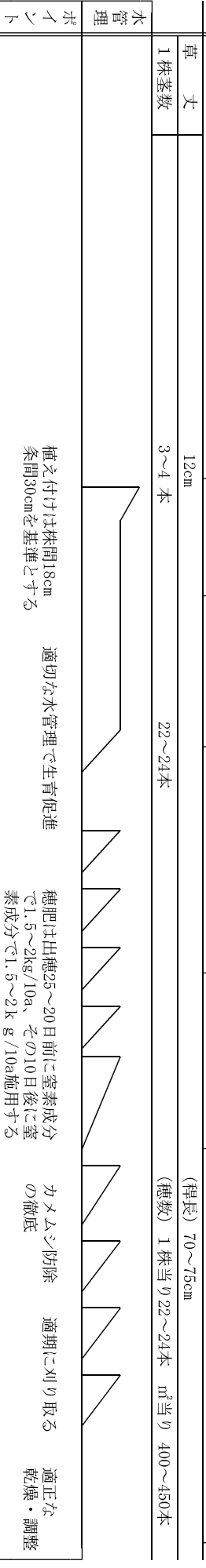
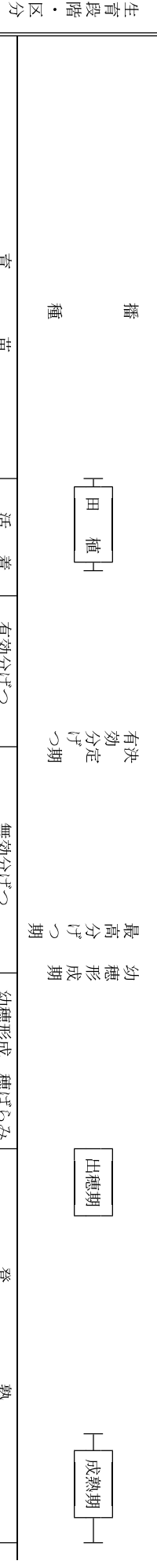
収量	穂数	穎数	登熟歩合	玄米千粒重
kg/10a	本/m ²	粒/m ²	%	g
540	400~450	29,000~30,000	82	22.5

栽培適地等
 ・県内全域（特に平坦部から中山間部の地力中庸から肥沃地に適する。）
 ・早植栽培に適する。

長所
 1. 餅質が良い。
 2. 収量性が高い。
 3. 倒伏しにくい。
 4. 穂発芽しにくい。
 5. 耐冷性がやや強い。
 6. 穂の先端が赤褐色で、識別性が高い。

注意点
 1. 倒伏には強いが穂端な多肥栽培は避ける。
 2. 紋枯病に罹病しやすいため、防除を徹底する。
 3. 白葉枯病抵抗性がやや劣るので、常発地での栽培は避ける。

月	3	4	5	6	7	8	9
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15



- 播種は水温を守る**
 - ・ 寒気成分は $2 \sim 4 \text{ kg} / 10 \text{ a}$ 程度
 - ・ 一株当たり本数 三丁四本
- 植え付けは適正に！**
 - ・ 外気温にならして健康育成
 - ・ 硬化期温度管理に注意
 - ・ 薄まきの別行 $(2 \sim 2.5 \text{ g} / \text{箱})$
 - ・ ハト胸状態となったことを確認して播く
 - ・ 僅けは温度を守る $(3 \sim 3.5 \text{ } ^\circ\text{C})$
 - ・ 浸種は水温を確認する
- 初期水の管理**
 - ・ 低温時や強風時は深水
 - ・ 浅水管理により水温を高く維持
- 中身の管理**
 - ・ 作播の別行
 - ・ 二株二本以上になったら中し
- 穂肥のタイミング**
 - ・ 止葉子幼穂長の確認 $(2 \sim 2 \text{ mm})$
 - ・ 穂肥 1 回 出穂前 $5 \text{ 丁} \sim 10 \text{ 日}$ 前
 - ・ 窒素成分量は $1.5 \sim 2 \text{ kg} / 10 \text{ a}$
 - ・ 紋枯病防除
 - ・ 穂肥 2 回 出穂前 $5 \text{ 丁} \sim 10 \text{ 日}$ 前
 - ・ 窒素成分量は $1.5 \sim 2 \text{ kg} / 10 \text{ a}$
 - ・ 穂いもち防除 出穂前 $2 \sim 3 \text{ 日}$
- 仕上げはきちんとして**
 - ・ 出穂後 五百粒度付間断かん水
 - ・ 穂いもち、カマムシ防除
 - ・ 適期刈り取り 香味粒率 $1 \sim 1.5 \%$
 - ・ 適正な乾燥 水分 $15 \sim 18 \%$
 - ・ 調整は 1 t スクレーター 総自 $1.8 \sim 2.0 \text{ t}$

「ミコトモチ」栽培ごよみ

収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	粒数 粒/m ²	登熟率 %	玄米 千粒重 g
540	390~ 410	26,000	80	26.0

注意点

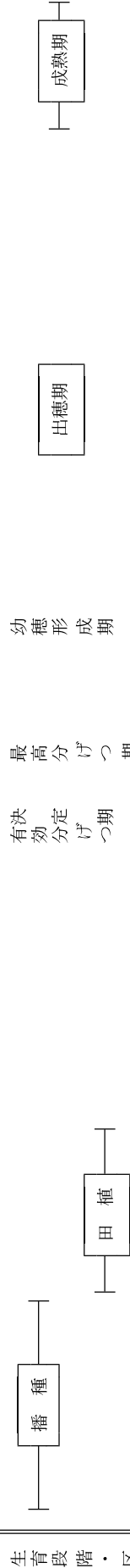
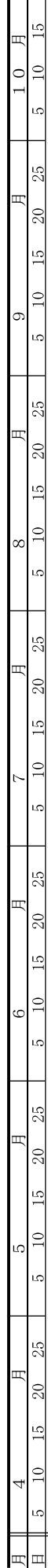
1. 葉いもち抵抗性はやや弱いため、適切な防除を行う。
2. 倒伏を防ぐために、多肥栽培はしない。
3. 穂莖芽防止のため、適期刈取に努める。
4. 胴切米発生防止のため、適地に作付け、移植適期を守る。

長所

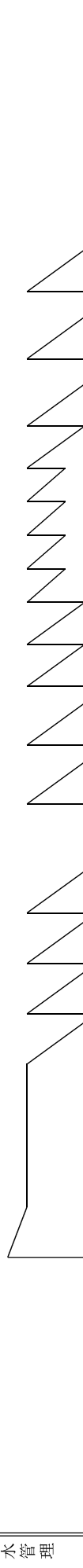
1. 餅の外観、食味が良い。
2. 粒の先端が褐色で芒がやや長く、識別性が高い。
3. 収量性が高い。

栽培適地等

- ・ 標高200m以下の平垣から中山間地帯とする。
- ・ ただし、8月中～下旬の1日の平均気温が20℃を下回る地域では、作付けを避ける。
- ・ 日照条件の悪い地帯は避ける。
- ・ 移植時期は5月上～中旬とする。



育 丈	苗	活 着	有効分けつ	幼穂形成 穂ばらみ	登 熟
草 丈	12cm			(稈長) 85cm程度	
1株茎数	3~4本			(穂数) 1株当り21~22本程度	m ² 当り 390~410本



ポイント

- ・ 適切な水管理で生育促進
- ・ 倒伏防止のため中干しを徹底
- ・ 7月上旬に葉色がうすい場合、中間追肥を施用
- ・ 穂肥は出穂前20日と10日にそれぞれ窒素成分で1.5~2kg/10a施用する
- ・ 適期に刈り取る
- ・ 適正な乾燥・調製

- ◎**播種は適期に!**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・四kg/一〇a程度
- ◎**田植は適期に!**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・四kg/一〇a程度
- ◎**中干しは適期に!**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・四kg/一〇a程度
- ◎**追肥の時期は適期に!**
 - ・ 窒素成分量で1kg/一〇a程度を施用
 - ・ 七月下旬に葉色がうすい場合
- ◎**中追肥**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a程度を施用
 - ・ 七月下旬に葉色がうすい場合
- ◎**出穂後の管理**
 - ・ 出穂後二〇日程度は間断かん水
 - ・ 穂いもち カマムシ防除
- ◎**生ずばらみ**
 - ・ 穂いもち防除 出穂前二三日
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a
 - ・ 穂莖第一回目 出穂前二〇日前
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a
 - ・ 穂莖第二回目 出穂前二〇日前 ※幼穂長二mm
 - ・ 結実防除
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a
 - ・ 穂莖第一回目 出穂前二〇日前
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a
 - ・ 穂莖第二回目 出穂前二〇日前
 - ・ 幼穂長二mm
 - ・ 止葉と幼穂長の確認
- ◎**穂肥の時期は適期に!**
 - ・ 窒素成分量は二・五kg/一〇a程度
 - ・ 七月下旬に葉色がうすい場合
- ◎**中干しは適期に!**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・四kg/一〇a程度
- ◎**田植は適期に!**
 - ・ 一畝あたり本数 三十四本
 - ・ 窒素成分量は二・四kg/一〇a程度
- ◎**初期生育の促進**
 - ・ 低温時や強風時は深水
 - ・ 浅水栽培により水温を高く維持
- ◎**養生期間の確保**
 - ・ 外気温にならして健康育成
 - ・ 穂化期は温度管理に注意
 - ・ 薄まきの励行(二〇~二五g/箱)
 - ・ ハト胸状態となったことを確認して揃く
 - ・ 穂は温度を守る(三〇~三二℃)
 - ・ 養生は水温を確保する(水温二〇℃以上)
- ◎**健康な実りを取り!**
 - ・ 調整ライスグレード 網目二・〇mm
 - ・ 適正な乾燥(水分二五%)
 - ・ 適期刈り取り 香味利用率一〇~二五%


大豆栽培ごよみ

生育ステージ	6月			7月			8月			9月			10月			11月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
生育ステージ																					
	<p>除草剤散布</p> <p>耕起播種</p> <p>基肥</p> <p>種子準備</p> <p>土壌改良</p> <p>排水対策</p>	<p>除草剤散布</p> <p>中耕培土</p>	<p>除草剤散布</p> <p>中耕培土</p>	<p>畦間灌水</p> <p>害虫防除</p>	<p>畦間灌水</p> <p>害虫防除</p>	<p>紫斑病防除</p> <p>害虫防除</p>	<p>紫斑病防除</p> <p>害虫防除</p>	<p>害虫防除</p>	<p>収穫</p> <p>乾燥</p> <p>調整</p>												
栽培管理	<p>除草剤を播種直後表層処理する</p> <p>耕起・播種はできるだけ同じ日に行う</p> <p>窒素一リソ酸人カリ八kg/一〇a</p> <p>紫斑・褐斑粒等を除き種子消毒する</p> <p>苦土石灰二〇〇〜二五〇kg等</p> <p>補助暗き土・明きよの地上</p>			<p>第2本葉展開期に子実節まで行う</p>			<p>第5本葉展開期に第1本葉節まで行う</p>			<p>開花後土が極端に乾く場合は灌水する</p> <p>害虫の発生状況により適行</p>			<p>開花三〇日後害虫防除を兼ねて行う</p> <p>開花四〇日後害虫防除を兼ねて行う</p>			<p>害虫の発生状況により適行</p>			<p>火力乾燥は子実水分三〇%以下で行う</p> <p>コンバインは茎水分四〇%以下が適期</p> <p>目撃粒率は八五%以上</p> <p>送風温度は三五℃以下</p> <p>汚損粒の防止</p>		
ポイント	<p>栽培密度は播種期で調整</p> <p>基礎整備排水基準参照</p>						<p>幼葉期は最も水が必要</p>			<p>カメムシ類</p> <p>カメムシ類</p>			<p>ハモンヨウ</p>								

小麦栽培ごよみ

ポイント	1. 優良品種の選定 2. 排水対策と土づくり 3. 適期播種と栽植密度の確保 4. 適切な施肥 5. 適期収穫
------	--

目標	水分12.5%以下 整粒歩合80%以上の良質小麦生産
----	-------------------------------

生育ステージ																																
栽培管理	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旬</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> <td>上 中 下</td> </tr> <tr> <td>栽培管理</td> <td> 土作り は場選定 種子消毒 作済 基肥 播種 耕起 砕土 除草剤散布 </td> <td> 除草剤散布 除草剤を播種後、土壌処理する。 平坦部十一月上旬中旬、ドリル播きでは八〜一〇kg 耕起はできるだけ深く、砕土は丁寧に行う。 窒素六〜八kg、リン酸八〜一〇kg、カリ八kg </td> <td> 除草剤散布 広葉雑草、スズメノテツボクが多い場合には、除草剤を葉面処理する。 </td> <td> 追肥 窒素二〜三kg </td> <td> 幼穂形成期 窒素一〜二kg、カリ二kg </td> <td> 茎立期 窒素一〜二kg、カリ二kg </td> <td> 出穂期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 病害虫防除 </td> <td> 実肥 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 窒素二〜四kg </td> <td> 成熟期 穂重が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 </td> <td> 収穫 乾燥・調製 籾目二〇mm、整粒歩合八〇%以上、水分二二・五%以下 穀粒水分三〇%以下で収穫 </td> </tr> </tbody> </table>	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	旬	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	栽培管理	土作り は場選定 種子消毒 作済 基肥 播種 耕起 砕土 除草剤散布	除草剤散布 除草剤を播種後、土壌処理する。 平坦部十一月上旬中旬、ドリル播きでは八〜一〇kg 耕起はできるだけ深く、砕土は丁寧に行う。 窒素六〜八kg、リン酸八〜一〇kg、カリ八kg	除草剤散布 広葉雑草、スズメノテツボクが多い場合には、除草剤を葉面処理する。	追肥 窒素二〜三kg	幼穂形成期 窒素一〜二kg、カリ二kg	茎立期 窒素一〜二kg、カリ二kg	出穂期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 病害虫防除	実肥 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 窒素二〜四kg	成熟期 穂重が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。	収穫 乾燥・調製 籾目二〇mm、整粒歩合八〇%以上、水分二二・五%以下 穀粒水分三〇%以下で収穫
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月																							
旬	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下																							
栽培管理	土作り は場選定 種子消毒 作済 基肥 播種 耕起 砕土 除草剤散布	除草剤散布 除草剤を播種後、土壌処理する。 平坦部十一月上旬中旬、ドリル播きでは八〜一〇kg 耕起はできるだけ深く、砕土は丁寧に行う。 窒素六〜八kg、リン酸八〜一〇kg、カリ八kg	除草剤散布 広葉雑草、スズメノテツボクが多い場合には、除草剤を葉面処理する。	追肥 窒素二〜三kg	幼穂形成期 窒素一〜二kg、カリ二kg	茎立期 窒素一〜二kg、カリ二kg	出穂期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 病害虫防除	実肥 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 窒素二〜四kg	成熟期 穂重が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期 赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。	収穫 乾燥・調製 籾目二〇mm、整粒歩合八〇%以上、水分二二・五%以下 穀粒水分三〇%以下で収穫																						
技術の内容(資材は一〇アール当り)	排水のよい圃場を選ぶ。 苦土石灰一〇〇〜二〇〇kg等、完糞堆肥二〜三t 排水のよい圃場を選ぶ。																															

ポイント	1. 優良品種の選定 2. 排水対策と土づくり 3. 適期播種と栽植密度の確保 4. 適切な施肥 5. 適期収穫
------	--

ビール大麦栽培ごよみ

目標	発芽勢 98%以上 粗蛋白含量 10～11%の範囲内 水分 13%以下 2.5mm 以上の粒が 95%以上
----	--

生育ステージ	10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ																		
	殺菌管理	ほ場選定	種子消毒	基肥	播種	除草剤散布	除草剤散布	追肥	追肥	種肥	種肥	病害虫防除	病害虫防除	成熟期	収穫	乾燥調整		
技術内容資料は「9ノル当り」	<p> 種子消毒薬剤による浸漬 粉衣または吹き付け処理を行う 排水溝深さ二〇～三〇㎝ 畝おき 苦土石灰二五〇～二〇〇kg 等 完熟堆肥二～三 排水の占圃場を確保 </p> <p> 平垣部十一月上～中旬 下刈ル播きは八～一〇kg 耕起はできるだけ深く 碎土丁寧に行う 窒素六～八kg 燐酸八～一〇kg カリ八kg </p> <p> 除草剤名播種後 土壌処理する </p> <p> 広葉雑草 スメノシボリが各場合に除草剤を茎葉処理する </p> <p> 窒素二～三kg </p> <p> 窒素一～二kg カリ二kg </p> <p> 赤かび病ため 必ず薬剤散布を行う </p> <p> 赤かび病ため 必ず薬剤散布を行う </p> <p> 穂莖が黄化し 粒がろう状 硬さに達したときが成熟期 </p> <p> 穀粒水分二五%以下 穂質調整七～八割で収穫 </p> <p> 篩目二五㎖ 整粒率九五%以上 水分三%以下 </p>																	